



碧南ロータリークラブ週報

第2586回例会 平成24年3月14日(水)

● 会長 石川 春久 ● 幹事 平岩 辰之 ● 会場監督 (SAA) 新美 惣英

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 鈴木健三・菅原 優・永坂誠司・鈴木宏枝



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

● 齊 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

東京海上日動あんしん生命保険(株)名古屋支社 ライフパートナー 永井 宏幸様
ゼネラルライフパートナー 亀田 昌映様

会 長 挨拶

本日は、先日の中日新聞に掲載された伊集院静さんの文を引用させていただきます。

わかって欲しい。

東北の町の、村の、里のどこかで、昨日、ようやく帰って来た人の通夜があり、

今日はその人の葬儀に並ぶ人がある。

明日も誰かの月命日がある。

そう、北の地では毎朝、毎夕、どこかで祈りを捧げている人がいる。

そうして三千余人のまだ帰らぬ人たちを待つ人が、同じように祈っている。

その上、町を去らねばならぬ人がいて、見送る人がいる。どちらも泣きながら互いのしあわせを祈っている。

復興だ。一年が経つと、テレビ、新聞、雑誌は言うけれど、この祈り続けている人たちのことをもう少しわかって欲しい。同情が欲しいんでは決してない。この震災がまだ続いていることをあなたたちにもわかっておいて欲しいのだ。

作家の私が、この人たちに言えることは、悲しみはいつか終る時が来る。そうして笑える日が必ず来る。という言葉だけだ。

どうか、わかって欲しい。



石川春久会長

幹 事 報 告

- ・第9回理事会報告と例会変更等は、幹事報告の通りです。
- ・社会奉仕委員会の緑化環境整備事業に当たり、地区RC財団の新地区補助金の交付を受け緑化事業の植樹を致します。

植樹は4月18日(水) 大浜小学校にて14時10分より執り行います。地区の新地区補助金委員の方が植樹に立ち会いますので、各委員長様始め、多くの方のご出席をお願い致します。

- 次年度のための地区協議会について、参加予定者の皆様には、交通手段のアンケートが配布されていますのでご返事ください。
- 出席義務者の次年度各委員長様は4月18日、25日の例会にて地区協議会報告をして頂きます。
- クラブ協議会懇談会は4月20日(金) 18時より大正館様にて、次年度、理事・役員・各委員長様で懇談会を開催致します。



平岩辰之幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数71名(内出席免除者14名の内出席者8名)出席者55名	
出席対象者 55/64名	出席率 85.94%
欠席者16名(病欠者1名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

長田 豊治君 3月11日の日曜日に名古屋ウィメンズマラソンに娘が走ってきました。最終組のエントリーでスタートラインを通過するのに10分かかったそうです。無事に5時間台で完走してティファニーのプレスレットをGetして来ました。この2日間はペンギン歩きをしておりましたが、無事しております。皆様のご声援に感謝。

角谷 信二君 本日の卓話の講師を紹介します。

清澤 聡之君 昨日、会員の奥津さん、衣浦グランドホテル様にお世話になりました。

山中 寛紀君 先週の例会、日本介助犬協会の事務局長高柳氏より碧南RCの皆様の大変親切かつ温かいご支援に心より御礼申し上げますとのことでした。どうも有難うございました。

卓話

「アメリカンフットボールの日本における現状と、アメリカンフットボールの魅力」

東京海上日動あんしん生命保険(株)名古屋支社 ライフパートナー **永井 宏幸氏**

まず始めに私の生い立ちをお話ししますと、そもそも自分はメジャーリーガーを目指し、野球の名門 広島県の崇徳高校に野球推薦で入学しました。授業料免除の待遇で野球漬けの毎日の高校一年生でした。

今では、こんな無様な体格ですが、当時は65キロの体重で、俊足が売りの長距離ヒッターでした。入部してすぐに4番をつとめ、監督から大いに期待されていたと自分でも思います。がふとしたことで、親と監督がぶつかり金輪際ベンチより外されることを通告されました。

自分の力ではかなわない現実がぶつかり、生き方を模索していた時、アメリカンフットボール部より勧誘を受けました。

初めて、アメリカンフットボールのヘルメット・ショルダーをつけ試合に臨んだとき、まさに肉と肉とのぶつかり合い、スポーツというよりまるで暴動状態の中にいるような錯覚を覚えました。

これがスポーツといえるのか…と衝撃が走りましたが、今ではアメフトは「キングオブスポー



永井 宏幸氏

ツ」であると思っています。

さて日本のアメフトの現状をお話ししますと、何度かブームらしいときはありましたが、基本的にはプロはなくマイナーなスポーツであると思います。

今までの歴史は、大学生がアメフトを引っ張っていたのですが、日大vs関学の時代が終わり、今ではどの大学が勝ち上がってもおかしくない、まさに世は戦国時代を迎えています。

アメフトは、競技人口が少なく、またハードで肉体を酷使するスポーツなので、OBも少ないうえ卒業して止めてしまう方が多く、一部のボランティア、いわゆるサンデーコーチに支えられているのが現状です。

ただ、近年では企業が専属スポンサーになり、プロコーチを雇うようになったため、社会人チームの方が勢いを増してきて、大学生を圧倒・凌駕することが多くなってきました。

ここでアメフトの魅力についてご説明いたします。アメフトは単なる肉弾戦のように思われる方も多いと思いますが、その戦略・作戦においては400~500種類あるといわれており、それを紙に落とすとタウンページなみになると言われております。

頭と顔が悪いとできないスポーツなのです。テレビでは流れないようなぶつかり合う時の音であるとか急所に入った時のうめき声…一度、生でのご観戦をお勧めします。

そこはもう、暴動のカタルシスで満ち溢れた空間です。

お膝元、東海地区のアメフトの状況ですが、高校では3校にアメフト部があります。

東邦・南山・海洋の3校です。絶対的な、部員不足ゆえ全国には到底届かないレベルであり、また彼らがそのまま大学に進学するため当然にアメフト不毛地帯となっております。

私は現在、海洋高校、南山大学、名商大でコーチをしております。

今年、嬉しいことがありました。海洋高校第1期卒業生の教え子が我が母校法政大学にアメフト推薦での進学が決まりました。大いなる一步を踏み出した実感を得ています。

私の野望は、東海地区をアメフトの聖地とすることです。

最後に、私の本業について触れさせていただきます。アメフトでは給料がでないため、私は東京海上日動あんしん生命保険に所属しております。

愛を皆様にお届けする仕事です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

次回例会案内 平成24年3月28日(水)

卓話「プロ野球開幕直前情報」

中日スポーツプロ野球デスク 青山 卓司氏